小野活性化協議会広報誌

小野夢プラン　**や　は　ず**　第1号

協議会は、より良い小野地区の将来を形づくる活動をすることを目的としています

小野活性化協議会　　会長　清水浩司

現在、小野地域では、「小野活性化協議会」を結成し、地域の課題について協議しております。

今まで、小野地区には地域の将来を考える組織がなかったわけですが、小野公民館建て替え計画を契機に、地域の活性化を図るために結成したものです。

小野地区の活性化のためには、豊かな自然と水と空気という中山間地域の特性を生かした地域づくりや特産物造りが必要です。

そこで、27名が、4つのワーキンググループ（部会）に別れ、小野の活性化のためには何をすべきかを考え、協議や視察、研修を行っています。

昨年からはNPO法人「ひろしまね」の安藤先生にもお越し頂きアドバイスして頂いております。これからの小野の未来を作るうえで大変重要な活動と思います。小野地域の活性化のため地域の皆様にもいろいろとアドバイスやお知恵をお借りいたしたく存じます。

やまぐち元気生活圏形成推進事業

中山間地域の集落機能を持続可能なものとするため、やまぐち元気生活圏づくりに着手した地域のうち、既に「地域の夢プラン」を作成し取組を進めている地域コミュニティ組織に対し、県が重点的に支援し、先進的なモデル地域を創造することで、県内他地域の更なる推進を図るとともに、やまぐち元気生活圏を担う地域コミュニティ組織の活動を支える。

なお、平成28年度、小野地区は県内12地区の1つに選ばれました。

ワーキンググループ（部会）の取り組み

WG「買い物ができる」　リーダ　石井輝男

小野地区を元気にする一環として、農産物直売所の出店に向けて、協議を行っている。

地域農業の衰退を、新鮮野菜で安心・安全な農産物の生産、販売を実施すること、人の集まる場所として、他のWGと連携して活性化につなげたい。今後は地域の皆さまのご協力をいただき地域の発展に努めます。

WG「診療所を開設する」　サブリーダ　吉松　隆

小野地区では"かかりつけ医"をしておられた村上医院が閉院となり我々の身近な総合診療医が不在の状況で、軽度な病状でも市内まで診察に行き非常に不便を強いられている。

小野地区の"かかりつけ医"の必要性を訴え、基礎的な資料を収集してデータ化し、データを基に行政・医療機関等へ働きかけることとし活動している。地域の皆様の要望や意見も頂けたら幸いです。

WG「売れる商品をつくる」　リーダ　八木静也

少数の部員で検討・議論を重ねている。その結果、今無いものを新たに創り出すのは困難を伴うとして、地域の食文化として既に定着しているものから特産品となりうるものを選別し、商品としてブラッシュアップしていく結論となった。腕に覚えのある方の自薦、他薦での参画をお願いします。

WG「生活交通を充実する」　リーダ池田圭介

小野地区に住み、公共交通（バスやタクシー）だけで、病院への通院、スーパー等への買い物をしている人は、何名ぐらいおられるか？

車社会になって半世紀、その間に道路も広がり、砂利道は舗装道路に変わり、家から目的地への移動はずいぶん便利になった。

その一方で公共交通への乗車率は下がり、便数も減り、公共交通のみで移動は、極めて不便だ。

生活交通WGでは、車社会の中での公共交通のあり方、特にお年寄りや車を持たない方の通院、買い物をどうするか、検討している。なかなか良いアイデアが出ない。一緒に考えてみませんか。

りレーエッセイ

事務局だより

地域を巡回する移動販売について、各地区を廻り、要望をヒヤリングし、事業への参加者もこれから募っていきたい。

市内の病院に出掛け、ついでに買い物もしたい人達とボランティアの運転者との連携を図る活動を計画中で、まずは小さく始めることで、地域とボランティアを絞り活動を開始したい。

ご参加よろしくおねがいします。

編集後記

安藤周治先生ご紹介

平成28年6月より、小野地区の活性化のご指導をいただいています。

内閣府地域活性化伝道師として、幅広くご活躍です。

1948年広島県三次市作木町で生まれる 1960年代から過疎問題に関わり「過疎を逆手に取る会」を立上げ会長、中国地域づくり交流会副会長

国では過疎問題懇親会委員、地域力創造アドバイザー、1991年内閣総理大臣賞受賞

コーディネーター NPO法人ひろしまね理事長 安藤周治

- 山口県の進める「やまぐち元気生活圏づくり」、そのための「小野地区夢プラン」の作成のため、小野活性活性化協議会の皆さんと意見交換をし、手伝わせてもらっています。
- 私の住む三次市作木町は、川との関係が深く小野とよく似ています。江の川（ごうのかわ）は、広島県に降った雨の3分の2を三次で集めて、中国山地を横断して島根県の江津市へ、日本海へと注ぎます。「5年に一度は水害に遭う」と言い『業な川』とも言ってきました。
- 昭和25年の人口は7000人余り。今は1500人です。高齢化率は5割、二人に一人は65歳以上といった山の郷です。少子高齢化の最先端のムラですが、なかなかどうして、元気なムラです。
- 地域活動が活発です。住民の自治組織「作木自治連合会」と三次市の施設の指定管理などを使った収益事業などを進める「NPO法人元気むらさくぎ」といった二つの『地域運営組織』が活躍をしています。
- 「住み慣れたここに、住み続けるためには、どうしたらいいだろうか」というのが、大きな目的です。実現のために地域の課題は何かと点検をし、地域の歴史を改めて調べるなどし、地域が元気になるためにはどんな仕組みやどんな活動をすればいいのかを話し合ってゆこうというものです。
- 「行政がやるべきこと」は、原則「税金を使い、単年度事業」。一人当たり900万円の借金の国、日本ですから、行き届かぬことが多く出てきています。一方、「住民がやること」とは、本来「仕事や生活をしながら、資金も自前で、余裕に応じてやること」ですから、当然限界があります。そこで、「住民と行政がお互いの限界を補いあう」という発想が大切です。「お互いの知恵や情報技術を持ち寄り、信頼関係を前提に、協働の仕組み」を創るということが大事かと思います。
- 「住み続けるまち小野づくり」のために、ご参加ご意見をお寄せください。

お問い合わせ

会長	清水 浩司	36－0525	副会長	中島 一雄	36－0557
副会長	八木 静也	36－0545	事務局	石丸 祐司	36－0289